

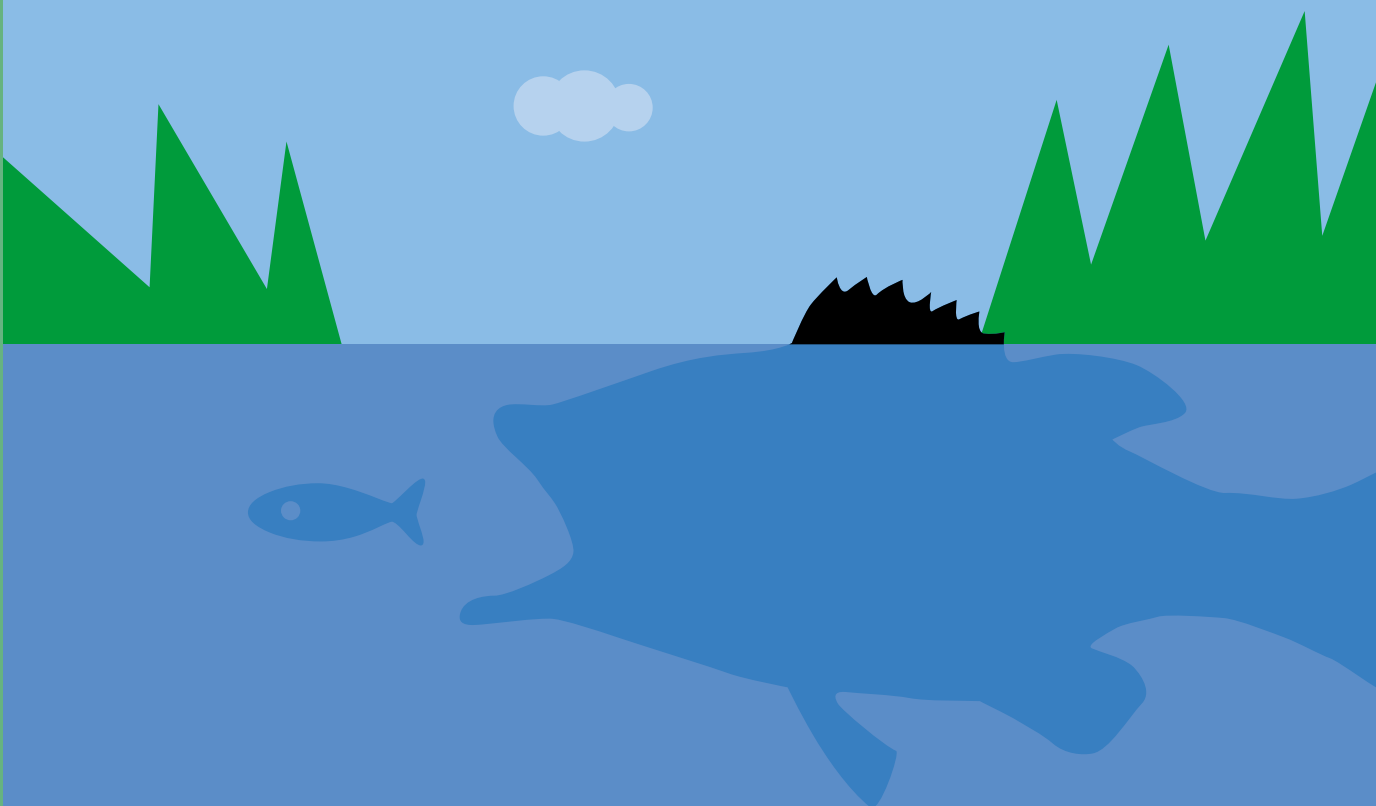
STOP THE BLACK BASS

みんなで学ぼう

が い ら い ぎ ょ も ん だ い

外来魚問題

ふるさとの川や湖沼の生き物たちを、
ブラックバスから守ろう



全国内水面漁業協同組合連合会

<http://www.naisuimen.or.jp>

はじめに

みなさんはブラックバスという魚を知っていますか？

「ルアーでファイトする魚だ!」そう答えた人は、きっとバス釣りにくわしいバサーと呼ばれるバス釣りマニアでしょう。それでは、ブラックバスが引き起こしている問題について、君はくわしく知っているかな？

このパンフレットは、ブラックバスやブルーギルなどの魚がもたらす「がいらいぎよもんたい外来魚問題」を、一人でも多くの人に知ってもらい、その魚をくじよ駆除しなければならなくなった現状について、みなさんに考えてもらうために作りました。

バス釣りをする人も、しない人も、ふるさとの川や湖、沼、みずべ水辺の自然環境を守り、未来に伝えていくために、少し勉強してみましよう。

目次

<small>がいらいぎよ</small> 「外来魚」 <small>がいらいがいぎよ</small> 「外来害魚」とは.....	3
<small>がいらいがいぎよ</small> 外来害魚 <small>しゆるい</small> の種類.....	4
バス釣りってなあに？ どこがわるいの？.....	6
<small>ためいけ</small> 溜池でもバス釣りはだめ？.....	7
釣りはルールとマナーを守ることが大事	
- ブラックバスのリリースはだめ! -	8
「ブラックバスはおもしろいからいいじゃないか」という身勝手な理屈.....	9
食べられる側が、身を守る術 <small>みすべ</small> をもっていない.....	10
<small>たよう</small> 多様な生物が生きていける環境を守ることが大切.....	11
バスは人間の身勝手 <small>みがって</small> の犠牲 <small>ぎせい</small> になっている.....	12
まとめ - それでも外来魚は駆除しなければならぬ -	13
<small>ぜつめつ</small> 絶滅のおそれのある水辺の生き物たち - レッドデータブックより -	14

「外来魚」「外来害魚」とは



もともとその国にいない、まったく違う国から持ち込まれたのが「外来魚」で、他の魚やいろいろな生物に影響を与え、生態系を破壊しているのが「外来害魚」なのです。いま問題とされているのは、おもに、オオクチバス、コクチバス、ブルーギルですが、ふだんみなさんがブラックバスと呼んでいるのは、オオクチバスのことです。これらの魚はどれも北アメリカ原産の淡水魚です。新しい環境に適応する力が強く、たいへんな大食いで、もともとすんでいた魚やエビ、カニ類、昆虫などをたくさん食べてしまいます。そのためそこで漁業を営んでいる人が、魚がとれなくなって困ったり、めずらしい希少な魚や昆虫が食べられていなくなってしまうなど、大きな問題を引き起こしています。

もともとすんでいた多くの生物、名もない小さな生きものたちは、日本列島とともに進化してきた「生き証人」です。バス類を釣ってみたいからといって、近くの小川やため池に放流すると、「生き証人」である小魚やトンボまでが食べつくされていなくなってしまいます。

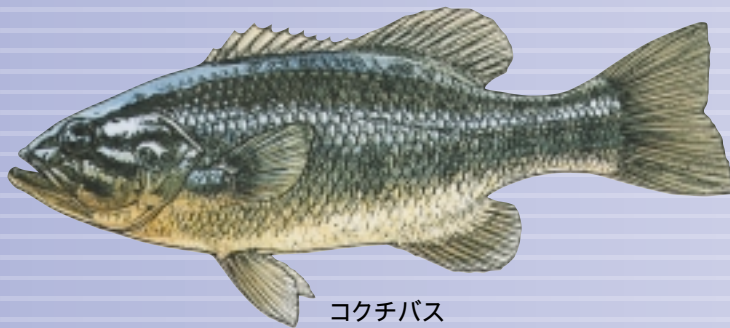
そういうことでブラックバスなどの外来害魚を勝手に放流することは、各都道府県知事が禁止しています。それでも、こっそりこれらの魚を放流する人があとをたたくて困っています。今ではすべての都道府県で、オオクチバスなどの外来害魚のいることが確認されています。

が いら い が い ぎ ょ し ゅ る い
外来害魚の種類

オオクチバス

ブラックバスと呼ばれている北米から持ち込まれた何でも食べる雑食性の魚で、たいへんな大食いです。名前のとおり大きな口をあけて、自分の体の、半分くらいのおおきさの魚をのみこむこともできるといわれています。オスが孵化するまで外敵から卵を守る習性があるので、たくさんの子孫を残すことができます。

SMALLMOUTH BASS



コクチバス

ブルーギル

オオクチバスの餌として、オオクチバスと一緒に放流するスタイルが原産地のアメリカで確立されていることから、誰かがそれをまねて、オオクチバスと一緒に放していると思われます。オオクチバスやコクチバスが成長した魚を食べるのに対して、ブルーギルはおもに魚の卵をたくさん食べることで知られています。卵を根こそぎ食べてしまうので、そこにすんでいる生物たちにとってはバス以上に恐ろしい魚といえます。

LARGEMOUTH BASS

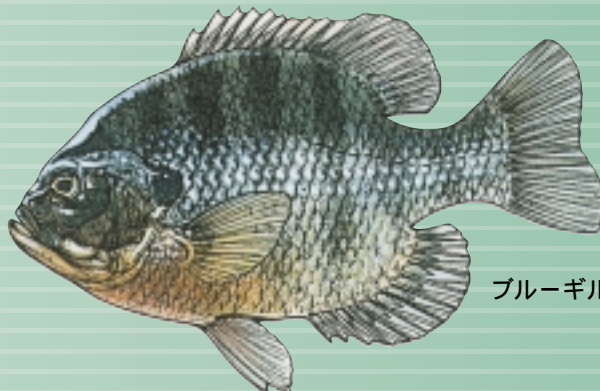


オオクチバス

コクチバス

オオクチバスと同じ仲間の魚です。外見上オオクチバスより口が小さいことが、大きな違いです。コクチバスは、オオクチバスにくらべ流れの速い川の上流、中流や、水温の低い湖沼でも生きることができます。そのため、一度川などに放してしまうと、オオクチバス以上に広い範囲に分布してしまうおそれがあります。

BLUEGILL



ブルーギル

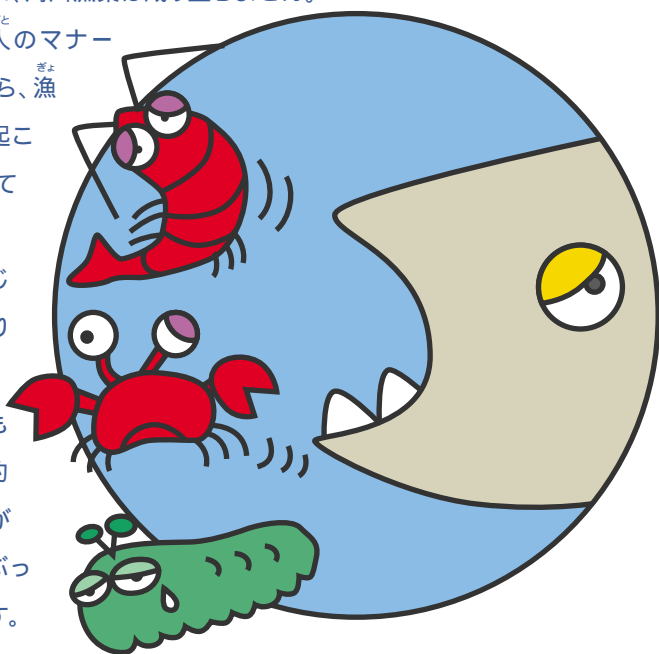
バス釣りってなあに？ ムシがわるいの？

プラスチックや金属を、小魚など、魚の餌に似せて作った釣り鉤(疑似餌)をルアーといいます。プラスチックでできた匂いつきのワームという疑似餌もあります。そのルアーやワームを使った釣りとして、バス釣りは人気があります。ブラックバスは攻撃的な魚で、餌に食いついた後にジャンプすることもあり、ひきを強く感じるので、バスの釣り人を夢中にしています。

しかし、ブラックバスは、もともとすんでいた魚やエビ、カニ類、昆虫などをたくさん食べてしまう環境によくない魚です。日本の湖や川の多くでは、漁業を営んでいる人がいます。内水面漁業協同組合では、環境保全とともに漁をする魚がいなくならないように、稚魚などを放流して育てています。そこにブラックバスなど強い肉食の外来害魚を放してしまえば、せっかく放流した稚魚や、漁をする魚、またその魚の餌になる生物が食べられてしまいます。これでは環境が破壊され、河川漁業は成り立ちません。

また、バスの釣り人のマナーが悪いなどの理由から、業者とのトラブルが起るといふ問題も生じています。

ブラックバスはなじみがないため、あまり食べる人はいません。ですから、この魚はもっぱら釣りをする目的のためだけに、誰かがこっそり、規則をやぶって放流しているのです。



溜池でもバス釣りはだめ？

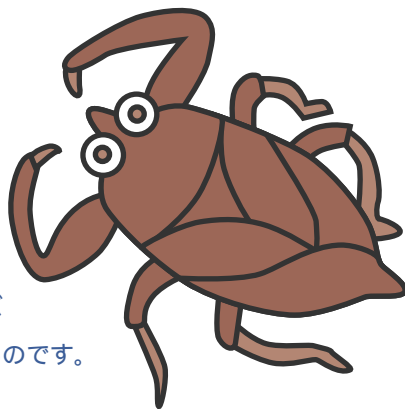
ダム湖や溜池など、漁業が行なわれていないところなら外来害魚を放してもよい、と思う人もいるかもしれませんが。しかし答えはノーです。



ブラックバスのような大食いの魚を、小さな池などに放したらどうなるでしょう。そこにすむありとあらゆる生物を食べ、そのうち共食いもします。それで何も食べるものがなくなったら、結局ブラックバスもいない、ただの水溜りになってしまいます。

一見なんでもない溜池も、詳しく観察すると、さまざまな種類のトンボや、ゲンゴロウ、コオイムシなど水中でくらす昆虫、小魚、貝類などが生息しています。中にはとてもめずらしい、絶滅のおそれのある種がいることもあります。まわりの環境破壊が進み、本来生息していた場所を追われて、ようやくそこで生きのびている例もあります。トンボの場合、幼虫のヤゴだけでなく、水面を飛ぶ成虫、さらには、ネズミやひな鳥までブラックバスに食べられているという報告もあります。

また、溜池で釣り人が残していった釣り糸にからまったり、釣り鉤をあやまっての呑んで、死んでいく野鳥もいます。そのほか葦原に釣り人が立ち入ることで、野鳥がひなを育てにくくなったり、魚の産卵場が破壊されるなど、マナーの悪いバス釣り人によって、野生生物は被害を受けるのです。



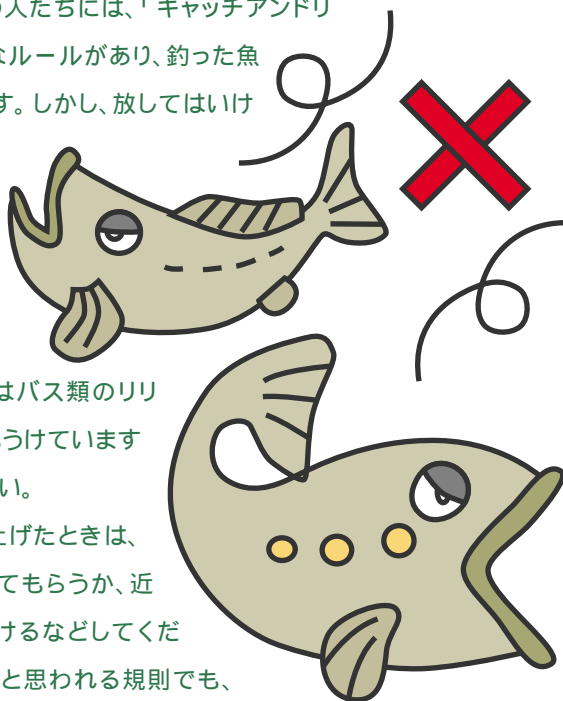
釣りはルールとマナーを守ることが大事

ブラックバスのリリースはだめ！

釣りは楽しみながら自然を学ぶことができる健康的なレクリエーションです。しかし、スポーツやゲームと同じように、釣りにもルールやマナーがあります。大事なことは、他人に迷惑をかけること^{めいわく}です。いろいろな生き物に思いやりを持ち、自然を大切にすることです。それができれば、釣りは楽しいだけでなく、いきた勉強の場になります。

ところで、バス釣りの人たちには、「キャッチアンドリリース」という身勝手なルールがあり、釣った魚^{ふたた}を再び水に帰しています。しかし、放してはいけないところに放され、^{せいそくいき}生息域を拡げているブラックバスの、「キャッチアンドリリース」はいけないことだと思います。県によってはバス類のリリースを禁止し、^{ばっそく}罰則をもうけていますので、注意をしてください。

ブラックバスを釣り上げたときは、家に持ち帰って調理してもらおうか、近くの内水面漁協にとどけるなどしてください。「めんどくさい」と思われる規則でも、そうすることで、自然を守ろうとしてブラックバスを減らす努力をしている人たちの助けになるのです。



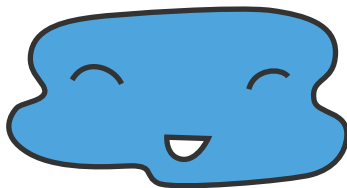
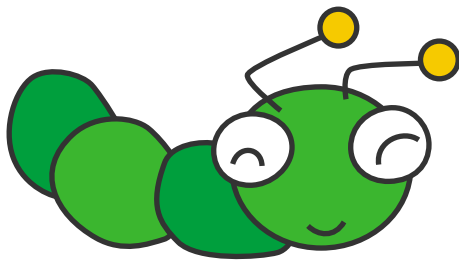
神奈川県の芦ノ湖や、山梨県の河口湖など、4カ所の湖では特別にブラックバスの放流が許可され、釣り人は遊漁料を払ってバス釣りをすることが許されています。そのため、これらの湖ではバス釣りファンがたくさん訪れにぎわっています。



この例をあげて、「ブラックバスはもうかるからいいじゃないか」「もっといろいろな湖や池でも、ブラックバスが放流できるように許可してもらおう」という人がいます。でもちょっと待ってください。もともといるはずのないこれらの外来魚が、なぜこんなに多くの湖や川や池に生息するようになったのでしょうか？ それは「ブラックバス釣りはおもしろいし、もうかるからいいじゃないか」という身勝手な考えが、背景にあるからではないでしょうか。利益追求のためなら、少々環境が破壊されてもよいという考え方は、かつての公害問題に似ています。

20世紀の私たちは、物質的、経済的豊かさを求めるあまり、自然環境を無秩序に破壊してきた面があります。その反省もこめて、

21世紀は環境再生の世紀といわれています。わたしたちにとって、本当に大切な価値、財産、豊かさとは何なのか、みんなで考えてみましょう。



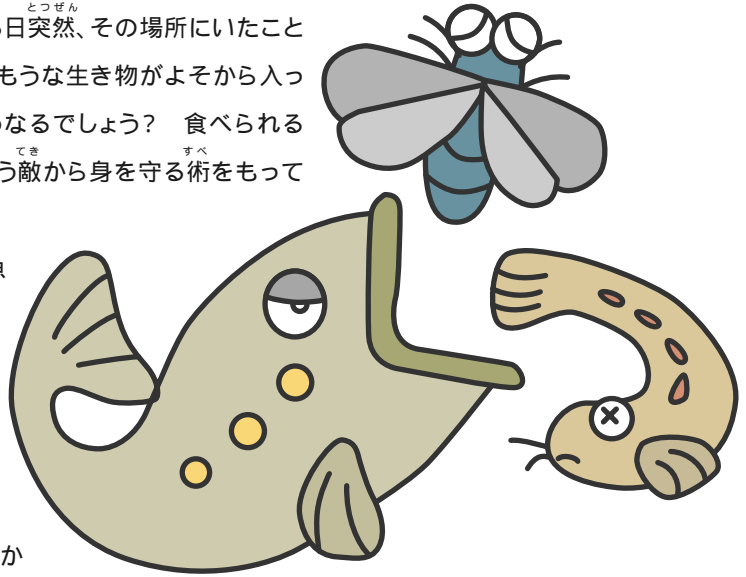
「ブラックバスはおもしろいからいいじゃないか」という身勝手な理屈

食べられる側が、身を守る術をもっていない

生物は長い時間をかけて進化を重ねていく中で、さまざまに分
化し、生きていく場所に応じて、他のいろいろな生物と複雑な関係
を築いてきました。その関係の中には、もちろん食べたり、食べら
れたりという関係もあります。食べる側は、うまく獲物がつかま
えられるように工夫するし、食べられる側は、なんとか食べられない
ですむように工夫をします。そういう工夫や経験は幾世代にもわ
たって重ねられ、遺伝的に受け継がれていきます。そうして、その
場所、その地域ごとに、折り合いのついたバランスが保たれています。

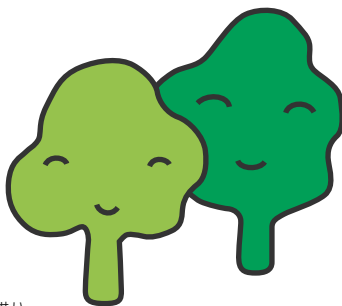
そこにある日突然、その場所にいたこと
がない、どうもうな生き物がよそから入っ
てきたらどうなるでしょう？ 食べられる
側は、そういう敵から身を守る術をもって
いません。

食べられる魚
たちは、突
然入って
くるブラッ
クバスの
ような恐ろ
しい外来魚か
ら身を守る遺伝的
な性質をもっていないのです。そこで、その場所にいる数が少な
い生き物の場合、身を守る術もなく、数が減り、そして絶滅してし
まう可能性もあるのです。



多様な生物が生きていける 環境を守ることが大切

私たちの身近な川や林には、さまざまな野生の動植物が生息しています。その生物の豊かさを「生物多様性」といい、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝的多様性」



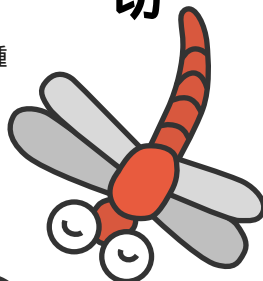
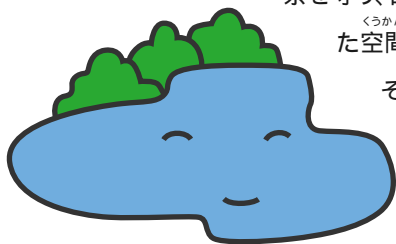
の三つの要素があります。すなわち、生物は、気象条件や地形など、それぞれ異なった環境と結びつき、たがいに複雑に関係しあってバランスを保ち、その地域特有のしくみをつくっています。そのしくみを「生態系」といい、その豊かさを「生態系の多様性」といいます。いま、環境問題に取り組むとき、この「生物多様性」がもっとも大事です。

私たち一人ひとりの顔かたちが違うように、生態系も地域ごとに異なっています。ですから、もともとその地域に生息しない種(特に、外来魚)を、そこに持ち込むことは、その地域の生態系を乱し、壊すことになるのです。

「生物多様性」といっても、たんにそこに生息する生物の種類が多ければよいというものではなく、その地域固有の生態系のなかで考えなければなりません。本来そこにあった生態系を守り、自然環境を再生、復元(こうしてつ

くられ
た空間をビオトープといいます)しながら、

そこに持ち込まれる外来種をできるだけ排除しようという考え方が大切なのです。



バスは人間の身勝手の犠牲になっている

さて、これまでブラックバスなどの外来害魚がもたらす問題について勉強してきました。みなさんは、ブラックバスという魚について、どんな感想を持ちましたか？「まわりの生き物に迷惑を掛け、なんでもかんでも食べる悪いやつ」そう思いませんでしたか？また、「水の中に君臨する王者、強くてカッコイイ！」そう思った人もいるかもしれません。

いうまでもなく、ブラックバスには足も羽もありません。ある池にいたブラックバスが、違う池や沼に自分ですき勝手に移動することなどできるはずがありません。今、日本全国のさまざまな湖沼や池に分布するブラックバスなどの外来害魚は、みな人間がその場所に持ち込んで、放したものです。それも規則を破ってこっそりとです。

ブラックバスも生き物です。少々大食いすぎるのはともかくとして、生きていくためにそこにいる生物を食べなければなりません。何者かが勝手にブラックバスをよそから運んできて放す。それを釣り人が、釣っては放し、釣っては放して、「楽しいからいいじゃないか」という。一方、漁業協同組合や環境を守るうとする人たちからは、ブラックバスは悪い魚だといって邪魔者あつかいされる。ブラックバスの身になれば、こんな理不尽な話はありません。ブラックバスは、人間の身勝手の犠牲になっているといえるのです。ブラックバスにとって、人間の手であちこちの湖や川に放されるのは、迷惑千万なことなのです。



まとめ

それでも外来魚は駆除しなければならぬ

ブラックバスなどの外来害魚が日本各地に分布を拡げ、さまざまな問題を引き起こしていることは今まで見てきたとおりです。はじめ外来害魚の問題がいわれたときは、漁師さんが魚が捕れなくなって困るといった、漁場管理上の問題としてあつかわれ、漁師さんとバス釣りとの対立として見られがちでした。その後、「生物多様性」や「環境保全」という考え方が広がり、環境問題としてとらえることが多くなって、より身近な問題として多くの人に知られるようになりました。バス釣りをする人の数も、一時期のブームの頃に比べると減っているようです。しかし、こっそり外来魚を放している人は今でもいるし、すでに放された数多くの外来害魚は、こうしている間もたくさんの生き物を食べ、環境を破壊しています。

今、漁業協同組合を中心に、国、自治体、溜池を管理する農業関係者、市民グループなどが協力して、外来害魚の駆除活動が各地で行われています。ある高校では、外来害魚を駆除するための釣り大会を、全校生徒が参加して開いたという例もあります。

駆除するということは、これらの魚を捕まえて殺してしまうということです。前の頁でもふれたように、規則を破って放された魚とはいえ、ブラックバス自身には罪はないわけですから、ある意味では残酷なことかもしれません。しかし「生物多様性」、「環境保全」を守るためには、外来害魚を駆除しなければならないのです。

ふるさとの川や湖、沼、水辺の生物環境を守り、未来に伝えてゆくために、私たちは何をすべきなのか、みんなで話し合ってみましょう。

ぜつめつ

絶滅のおそれのある 水辺の生き物たち

- レッドデータブックより -

ぜつめつ
絶滅のおそれのある動植物をリストにして、
まとめたのがレッドデータブックです。
ここに紹介するのは、そのデータブックに
のっている生物のほんの一部です。



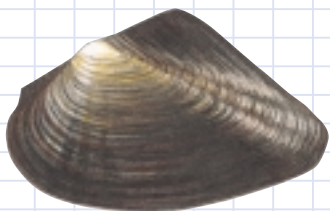
ホトケドジョウ

コイ目 ドジョウ科
分布:東北(青森県を除く)~近畿
絶滅危惧IB類(EN)



メダカ

メダカ目 メダカ科
分布:北海道・本州・四国・九州
絶滅危惧II類(VU)



イケチョウガイ

イシガイ目 イシガイ科
分布:本州(琵琶湖、霞ヶ浦)
絶滅危惧I類(CR+EN)



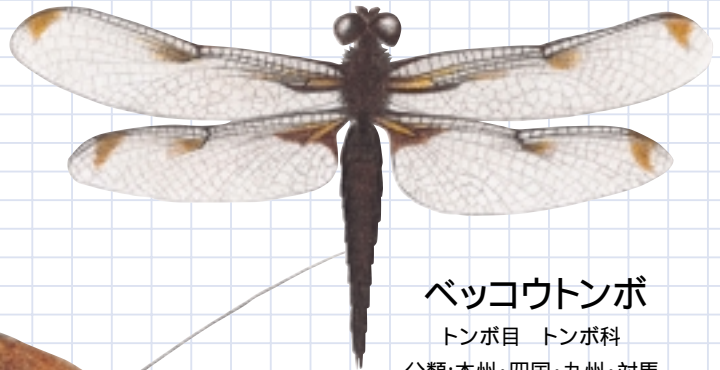
タガメ

カメムシ目 コオイムシ科
分類:本州・四国・九州・対馬・沖縄本島
絶滅危惧II類(VU)



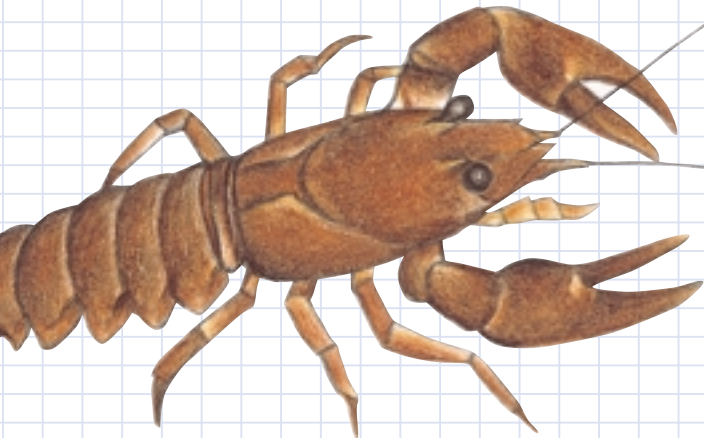
イトウ

サケ目 サケ科
分布:北海道東部
絶滅危惧IB類(EN)



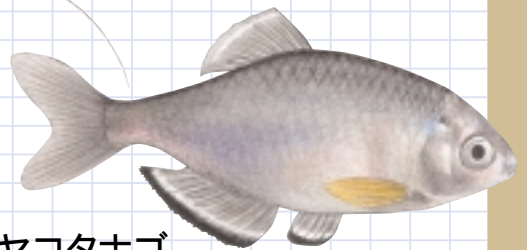
ベッコウトンボ

トンボ目 トンボ科
分類:本州・四国・九州・対馬
絶滅危惧I類(CR+EN)



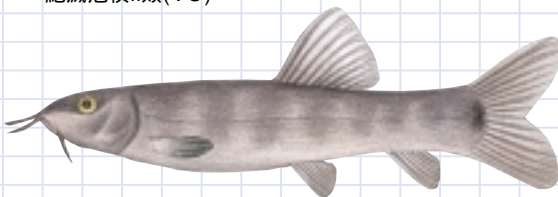
ニホンザリガニ

エビ目 ザリガニ科
分布:北海道・本州(東北地方)
絶滅危惧II類(VU)



ミヤコタナゴ

コイ目 コイ科
分布:本州(関東平野)
絶滅危惧IA類(CR)



アユモドキ

コイ目 ドジョウ科
分布:本州(琵琶湖水系・岡山県)
絶滅危惧IA類(CR)



カワシンジュガイ

イシガイ目 カワシンジュガイ科
分布:千島列島・北海道・本州
絶滅危惧II類(VU)

絶滅(EX)
我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅(EW)
飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧I類(CR + EN)
絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧IA類(CR)
ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧IB類(EN)
IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧II類(VU)
絶滅の危険が増大している種

わたしたちは、川や湖の環境を守り、
いつまでも多くの魚がすめるように努力しています。

ないすいめんぎょぎょうきょうどうくみあい

「内水面漁業協同組合」とは



日本の多くの川や湖、沼などには、漁業を営んでいる人がいます。そこで漁業をすることを各都道府県から免許めんきょされているのが、「内水面漁業協同組合」で、漁師さんはその組合員になります。広い海と違い、内水面の場合、漁をすると魚などの漁業資源しげんがすぐになくなってしまいます。そのため「内水面漁業協同組合」は、漁をする魚などを増殖ぞうしょくするよう法律ざむで義務付けられています。各漁業協同組合は、毎年、川や湖に稚魚ちぎょの放流ほうりゅうをしたり、産卵場さんらんじょうの保護ほごをしています。また、河川かせん、湖沼こしょうの環境を守るため、水辺せいその清掃、子どもたちと身近な川たけんがくしゅうの体験学習くじょ、駆除を目的としたバス釣り大会なども行っています。

全国内水面漁業協同組合連合会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル

tel 03-3586-4821 fax 03-3586-4898

e-mail:zennaigyoren@naisuimen.or.jp

<http://www.naisuimen.or.jp>